

扶桑讀本 尋常科用 一之下

不認定等

K1208  
66  
1.2

K120.8

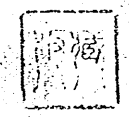
66

1.2

# 本 校 桑 讀

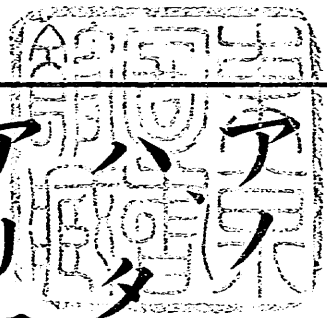


私立女子学校



## 扶桑讀本第二

第一 トウ、タウ、



アハ  
コトモ

タレ  
デ

アリ  
マス  
カ。



カトウ  
サン  
ト  
サトウ

サンデ、アリマス。フタリ  
トモ、カパントベインタウ  
トヲモツテ井マス。

第二 ゆふ、いう、

なつのゆふべは、すす  
しく、ふゆのあさは、

さむし。いまは、なつの  
ゆふかたな  
り。  
どこかへい  
うほに、まる  
りませう。

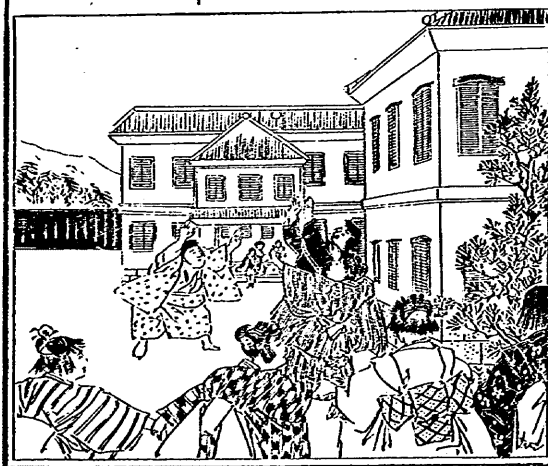


重習 第一

とうふ。こんぺいたう。  
いうびん。こせう。

第三 カウ、ドウ、

コレハ、ガクカウナリ。  
 オホクノコ  
 ドモガ、ウン  
 ドウシテ井  
 マス。

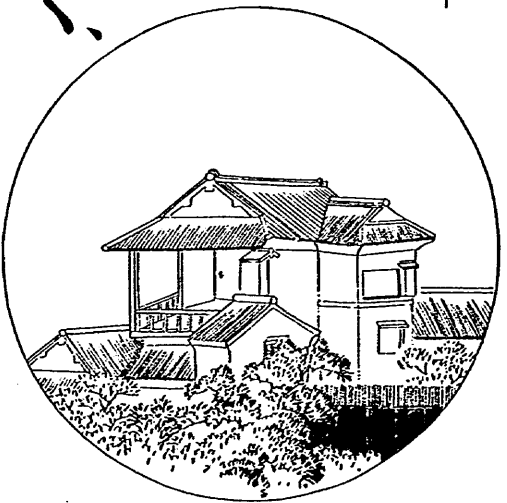


ヲトコノコハ、ムカウ  
 ニ、マリヲナゲ、ヨシナ  
 ノコハ、ウタヲウタ  
 ウテ井マス。

第四 さう、ざう、

このいへは、どぎざうづ

くりにて、たいさう  
 よくありま  
 す。  
 にはもうち  
 も、うつくしく、  
 さうちをいしてあります。



重習第二

かうやく。ぶだう。  
 ざうり。さうー。

第五 ハウ、バウ、

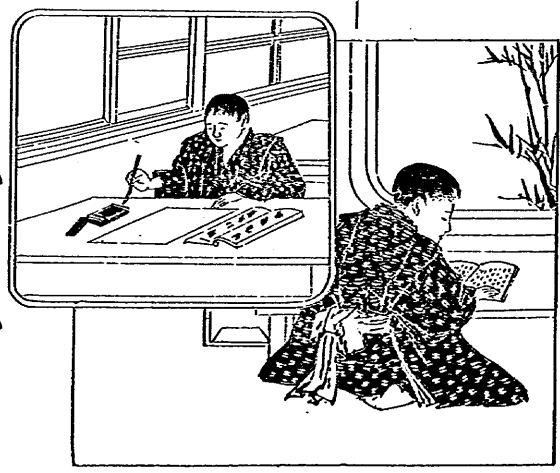
カメヨ、カメヨ、バウシ  
 ヲカブレ、カメカメタ  
 テヨ、カメハ、ヨキイ

又、マハレ、マ  
ハレ、ホエヨ、  
ホエヨ、ゴハ  
ウビニ、サカ  
ナヨヤルゾ。

第六ーふ、どふ、



かねがなる、いまは、  
なんどなる  
か。ごぜんど  
ふにどなり。  
ごごにどに  
は、ふどををへて、う



ちにかへれば、ほん  
のふくーふをするな  
り。

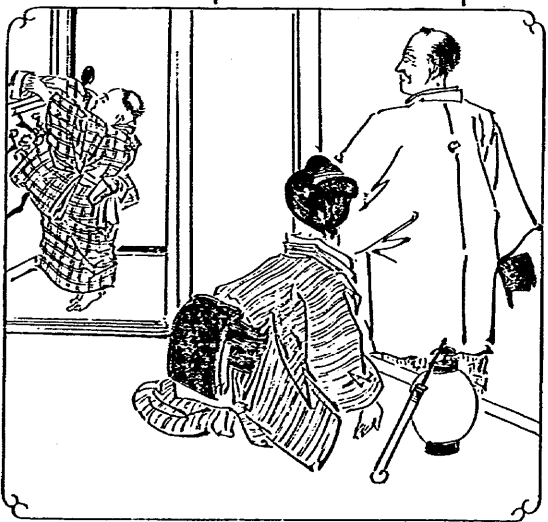
重習第三

はうき。ばうー。  
こんぼう。ごぼう。

第七 ちやウ、ラウ、ラフ

タラウ、ヲチサマ、ガ、オ

カヘリナサルゾ、チヤウチ  
ンヨモツ  
テオイテ。  
ハイ、ラフソ  
クガアリ  
マセヌ。ラフソクハ、タナ



ノウヘニアリマス。

第八 きう、けふ、けう、

けふは、よききう、つ

であります。

みんな、で、

たいさう、を



いた、ませう、むとうさ、  
んは、けう、になりた、  
まへ。

重習第四

てうー。らうどん。  
せいろう。きうかん。

第九 ノウ、ボウ、マフ、

ケフ、ハ、イ子カリ、ナリ。



ノウフノハ  
 タラキヲミ  
 タマヘ、アノ  
 ヒトハ、ボウ  
 ニテ、イ子ヲ  
 ニナヘリ。シリ  
 タマフヤ、



コノモミヲシアゲル  
 テカズヲ。

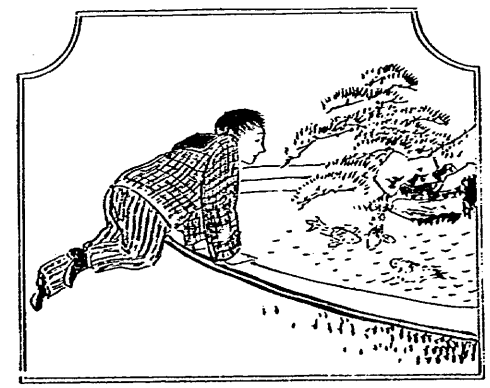
第十 きよ、ぎよ、

いけのなかに、きんぎ  
 よたよけり。このきんぎ  
 よは、きよねん うまれ

なり。  
きんぎよ、き  
んぎよ、はや  
くみかけ、  
あかか、ぶ  
ちか。

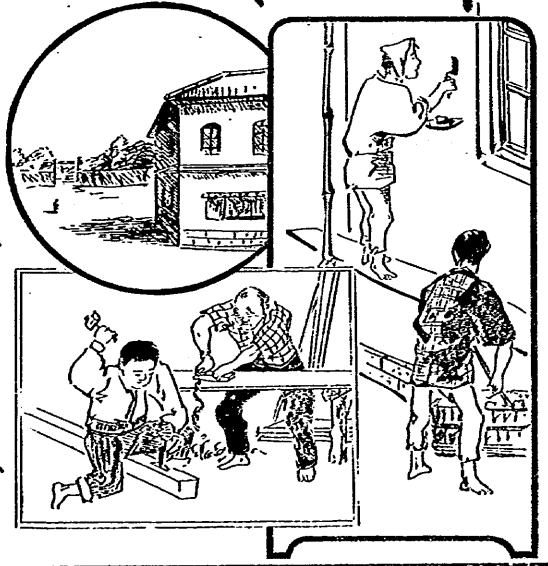
五第習種

めなう。きよくば。  
きんぎよ。



第十一 クワ、グワ、

ダイク、ハイ  
へヨ、タテ、  
サクワンハ、  
カベヨヌル。  
コノイへハ、ドザウツ



クリカ、レングワ、ツクリ  
カ。ドザウ、ツクリト、レ  
ングワ、ツクリト、ハグワジ  
ノオソレ、スクナシ。

第十二 ちや、ちよ、

ははさま、ちよいとみて

くだされ。  
たまへ、どう  
したか。  
ちやわんの  
おれで、けが  
を、しました。



ああ、あぶ

ない、ふかくきるれば、  
たいへんです。

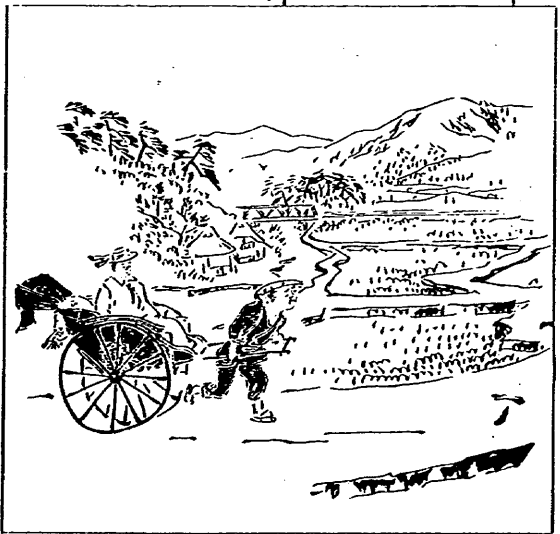
重習第六

すゐくわ。れんぐわ。  
ちよく。ちやわん。

第十三シヤ、シヨ、ジヨ、ヤウ

クルマヤサン、キフニ

ヤツテクダ  
サイ、ニバン  
キシヤニ、オ  
クレヌヤウ。  
アナタヒト  
リテアリマスカ。キン



ジヨノホウイウト、一  
シヨニマ井リマス。

第十四やう、はう、

ひいでたり、あのもや  
うをみたまへてんき  
よろーからん、けふは、

よきにち江  
うびであり  
ます。



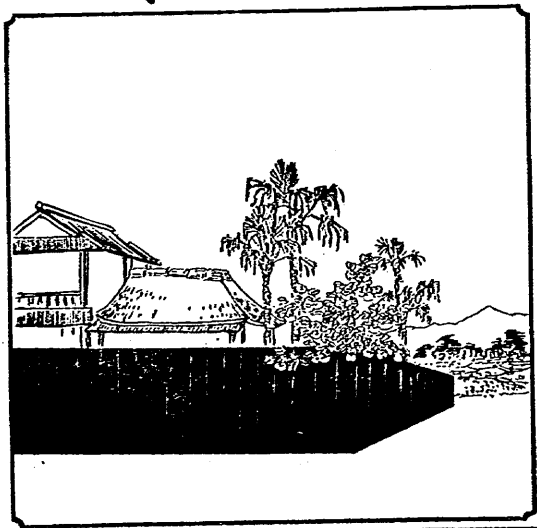
あなたもーよに、うを  
つりにたいてなさい。

重習第七

ーよもつ。ーやほん。  
やうー。きふす。

第十五 シユ、ジユ、ヒヤ

イヘノマハ  
 リニ、シユロ  
 トカキノキ  
 トガアリマス、  
 シユロハ、タカクノビ



テ井マス。

カキノキニハ、オホクノカ  
 キガヒヤクモニヒヤクモ、  
 ナリテ井マス。サレドモ、マダ  
 ジユクシテ井マセヌ。

第十六 ちゆう、ちゆう、

あなたは、まんぢゅうを  
 すいてゐま  
 すか。  
 わたくしは、  
 くわしを、  
 よほどすいて、をります。



せうちゅうは、どうですか。  
 せうちゅうは、からだの  
 ためにな  
 りませぬ。  
 第十八 テフ、チャウノフ、ヂョ  
 アナタハ、チヨセイトノ

重習第八

しゆにく。トゆばん。  
 せうちゅう。まんぢゅう。

ウタウ テ 井マス シヤウ  
 カヲ ゴゾシ  
 ジ デス カ。  
 ワタクシ モ、  
 チヤウド、キ  
 ノフ ナラヒ マシタ。



テフ テフ、 テフ テフ、  
 ノシヤウカ ハ、オモシロ  
 ク、アリマス。

第十八 きやう、

この きやうだいは、なか  
 なか、ぶんきやうかてあ



ります。

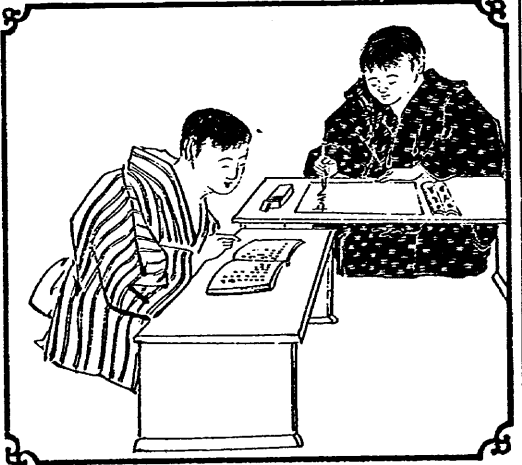
あには、ほん

をよみ、たと

うとは、さうし

に、ドをならふてゐま

す、このきやうだい



のちによきひととな

りませう。

重習第九

ちやうめん。しやうが。

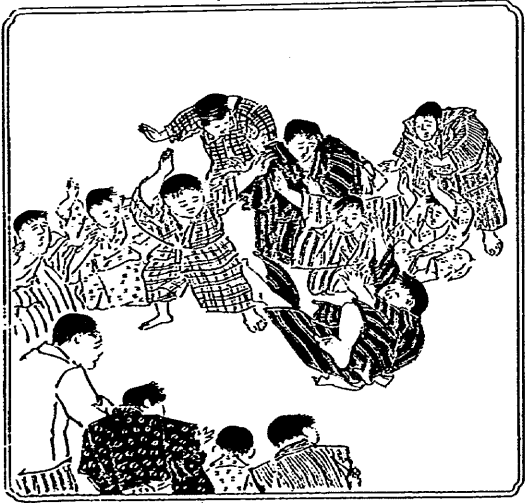
ききやう。

第十九 シヨウ、ジヤウ、マウ

オホクノコトモガ、ス

マウヲトリテ井マス。

ドチラガ  
 カチマセウ  
 カセノヒク  
 イコドモガ  
 ワザノジヤウズデア  
 リマス、アア、シヨウブガ



ツキマシタ。

第二十 ぎやう、びやう、

このにんぎ  
 やうは、びや  
 うきで、ねて  
 をります。



ーやうどのすきまから、  
かせがくるかせにあ  
たれば、やうどやうに  
わるい、どれびやうぶを  
たてませう。

重習第十

ドようきせん。  
にんぎやう。  
びやうぶ。

第二十一テヤ、

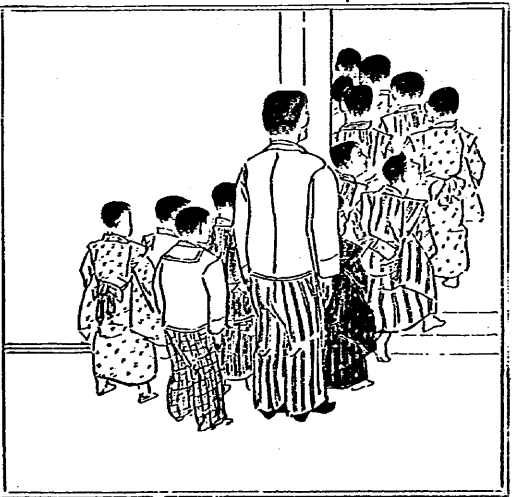
ムカフカラ、  
ジンリキシヤ  
ガ、カケテ  
キマシタ、ア  
ア、ウレシ、アレハ、アニ



サマチヤ。  
 アニサマハ、トコヘオ  
 イデテヨラレマシタカ。  
 ケフヘイタイヨヤメ  
 テ、オカヘリデアリマス。

第二十二 ぢやう、ぎやう

たほくのせ  
 いとが、けう  
 ーにみちび  
 かれて、けう  
 ぢやうにはひれり。  
 みんな、ぎやう、ぎがよく



あります、くわけふは、  
 めうーんくわ、か、さん  
 めつくわ、か、さん  
 か。

重習第十

くどやく。  
 どぢやう。

第二十三  
 ミヤウニチ、ハ、ニチエウ

ビ、デ、アリ、マ  
 ス。  
 ナラウ、サン、  
 ア、サ、カラ、ア  
 ソ、ビ、ニ、オイ、デ、ナ、サイ、  
 ワ、タク、シ、ガ、キ、メ、ウ、ナ

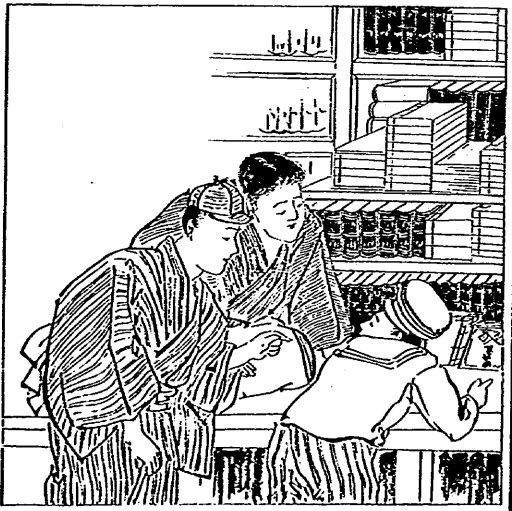


モノヲ、クフウシテヲ  
リマス。

第二十四 ちやう、ちゆう、

けふは、せうこんーやの  
まつりで、あります。  
あにさん、ーやうかの

ほんを、かう  
てちやうだい。  
たまへ、どれ  
がたすきか。  
ちゆうーん  
まさーげの  
ついてゐる



のが、すいてゐます。

二十第習重

れうー。みやうが。  
へうたん。こんにやく。

第二十五 犬、人、



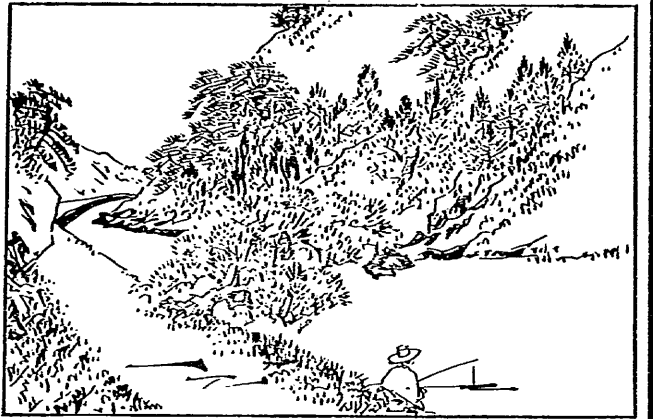
ナル犬ハ、人ヲノセタ

一。ピキノ大  
キナ犬。  
大ナル犬ア  
リ。コノ大

リ。コノ大キナ犬ハ、  
コノ人ノカヒ犬ナリ。  
犬ハ、ヨク、ヨヲマモル。

第二十六山川木

この山は、たか。あの  
川は、ふか。このたか



き山に、たほくの  
木、げれり。  
この木は、ま  
つの木か、す  
ぎの木か。

ふかき川には、たほくの



うをろだつ。あれみよ、  
かの人は、川のきー  
より、うををつれり。

重習第三十

川のきーに、大なる木あり。  
かりうどは、犬をつれて、山にのぼれり。

第二十七 天、小、



ケフハ、ヨキ天キナリ。  
二人ノコド  
モハ、タコヲ  
アゲヨルナリ。  
大キナタコ  
ハ、タカク、天

ニアガリ、小ナタコハ、  
木ノエダニカカレリ。

第二十八 父、母、



父は、山にか  
り。母は、川  
にゆきて、き

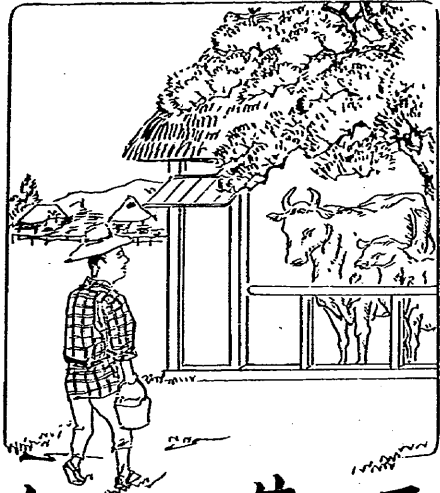
ものをあらへり。父母  
は、われらのために、か  
やうにくらうゝたまへり。  
されば、父母のたんは、  
山よりもたかく、うみ  
よりもふかーといふなり。

重習 第十四

小きたこには、山と川との急をかきり。  
父母のたんは、かぎりなり。

第二十九 牛、手、本、日、

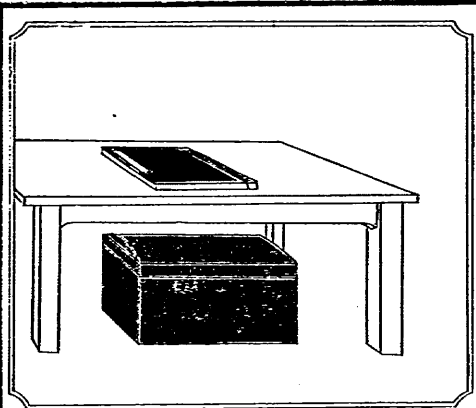
コレハ、牛ゴヤナリ。ミ  
ヨ、大ナル 牛ハ、メ牛  
ニシテ、二本ノツノヲ



モチリ。小キ  
牛ハ、コ牛ニ  
シテ、一本ノツ  
ノヲモモタズ。

カノ人ハ、ミギノ手ニ、  
ヲケヲモチリ。コレハ、

マイ日、牛ニウヲシボル  
人ナリ。



第三十 上、中、下、  
つく急の上  
に、とく本あり、  
ろの下に、ぶ

んこあり。とく本の中  
には、たほくのことを  
かけり。

重習第五十

牛にうは、やうどやうによろし。  
このたこは、上り、かのたこは、下る。

第三十一 字、又、



キミハ、ヨク  
 字ヲカキ、又、  
 ヨク本ヲヨ  
 ミウルカ、字ヲカキエ  
 ザレバ、ワガナヲモカ  
 クコトデキズ、本ヲヨ

ミエザレバ、コトヲシ  
 ルコトナシ。  
 サレバ、モン字ヲカキ、又、  
 モン字ヲヨムコトヲ  
 ナラフベシ。

第三十二水、石、



川の水は、な  
がれてやまず。  
あさきを、せ  
といひ、ふかきを、ふち  
といふ。石にくだけて、  
なみをどり、いはほにふ

れて、水めぐる。

重習第六十

人は、つとめて文字をならふべし。  
川の中に、大なる石あり。

第三十三井、女、其、

カノ女ハ、井ノ水ヲ  
クミテ、キモノヲアラハ

ントス。其水  
 ハ、キヨクシ  
 テウツクシ。  
 ツルベノツ  
 ナノ、ナガキヲミレバ、  
 コノ井ハ、フカカラシ。



第三十四 冬、雪、彼、



冬のさむさは、はげし。  
 雪は、一めん  
 につもれり。  
 彼女は、木の  
 上の雪をは

らへり。

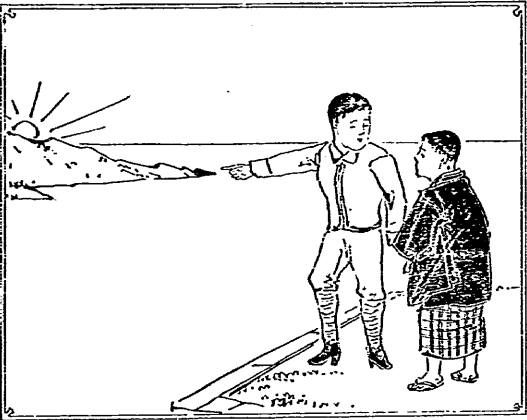
ああ、さむからん、彼女の  
手あゝをみよ。

重習第七十

其井の水は、うつくし。

彼こどもは、雪だるまをつくれり。

第三十五 此、出、入、東、西



ヨ、アケタリ、日ノ出ヅル  
ヲミヨ、此、日ノ出ヅル

ハウヲ、東ト  
イフ。日、クレ  
タリ、日ノ入  
ルヲミヨ、



此、日ノ入ル ハウヲ、西  
トイフ。



第三十六 左、右、南、北、

東にむかひ  
て、西をせな  
に、左右の

手をさせば、右の手に  
あたるはうは、南に  
て、左の手にあたるは  
うは、北なり。此、東西  
南北を、四はうとなづ  
けたり。

10170.8

重習第八十

日は東に出で、西に入る。  
四はうとは、東西南北をいふ。

扶桑讀本第二終

福岡縣福岡市博多下吳服町

鐵耕堂編纂部

福岡縣福岡市博多下吳服町

鐵耕堂 竹田 芝郎

福岡縣福岡市桃屋町

高田 芳太郎

山口縣赤間關市入江町

山名 松次郎

山口縣厚狹郡舟木町

中原 卯兵衛

定價六錢

明治二十七年

十二月十八日

印刷

明治二十七年

十二月廿八日

發行

編輯者

發行兼印刷者

發賣所

同

同

版權所有

